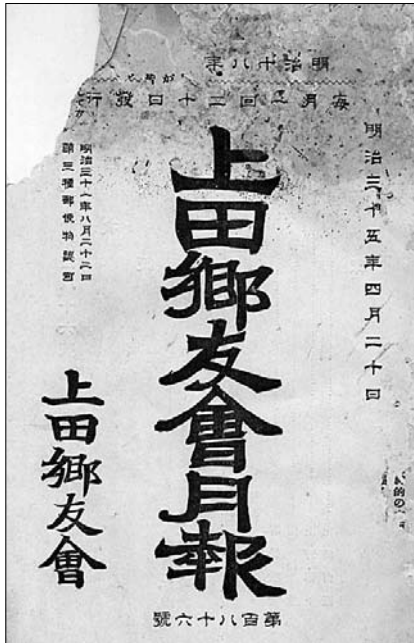


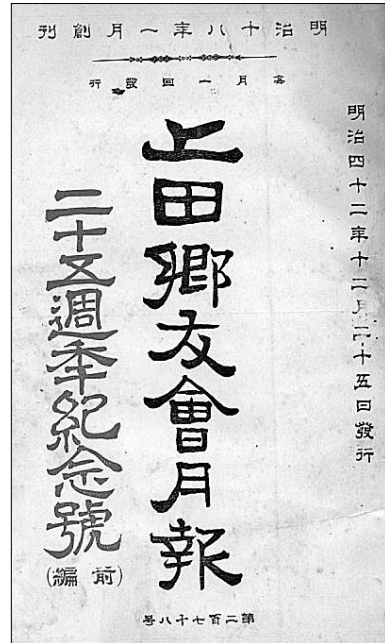
上田郷友会のあゆみ

上田郷友会月報の表紙をたどって

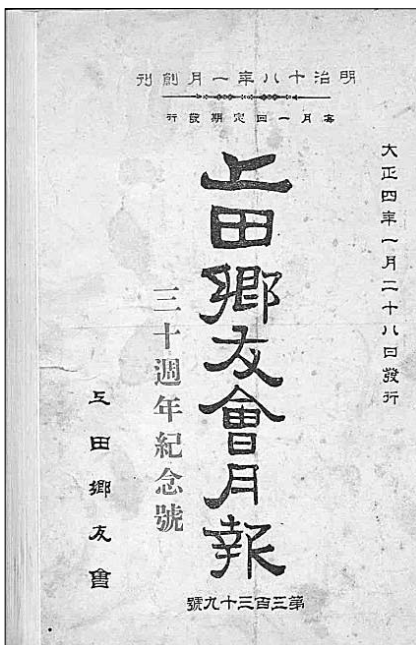
上田郷友会初期の月報は小さな雑誌の形をしたものであった。その表紙は、年代によって色々変えているが、みな似た形式を取っている。



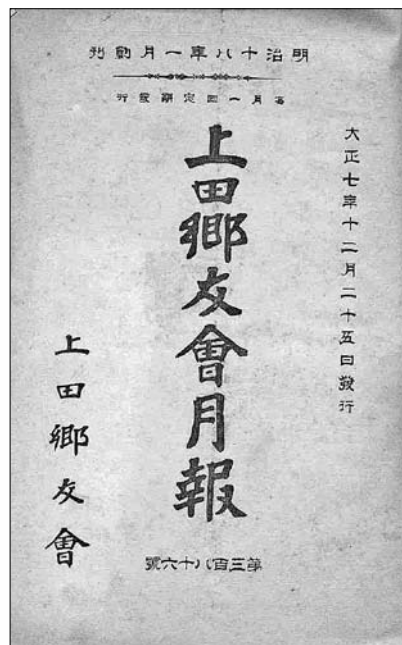
第186号 (明治35年 4月号)



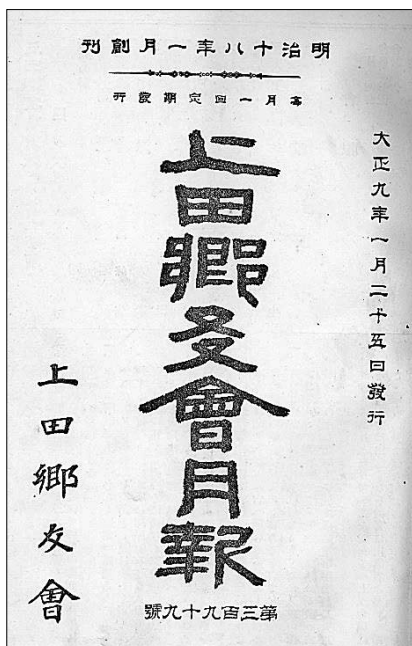
第278号 (25周年記念号) (明治42年12月号)



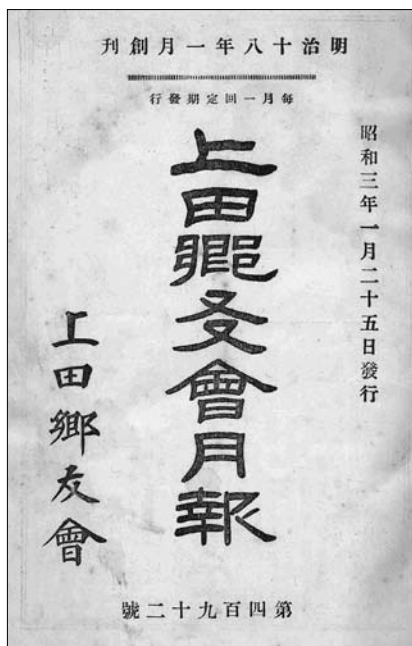
第339号 (30周年記念号) (大正4年1月号)



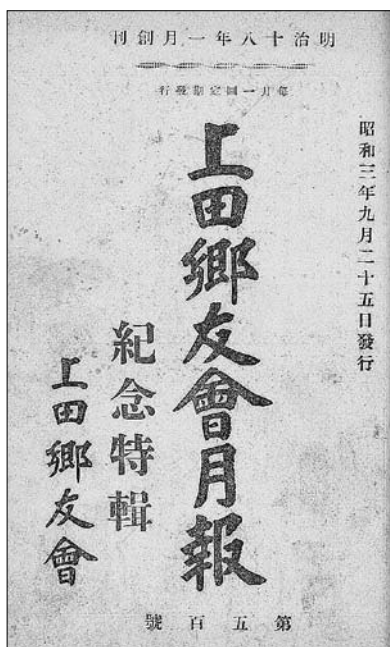
第386号 (大正7年12月号)



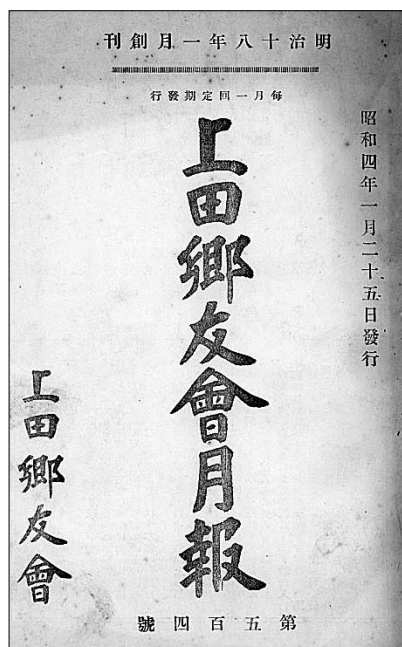
第399号 (大正9年1月号)



第492号 (昭和3年1月号)



第500号 (記念特集号) (昭和3年9月号)



第504号 (昭和4年1月号)

●●戦中戦後の月報について●●

(1)昭和19年4月から昭和20年8月（終戦）まで

当時、戦時中で用紙と資金不足により活版印刷の月報が困難となり、昭和19年4月号以降は謄写版による印刷で月報の発行を続けた。昭和19年8月号からは、大塚稔氏からの資金援助により月報の活版印刷を再開したが、昭和20年3月10日の東京本所・深川地区が大空襲を受け、全ての資料が焼失したため月報の発行は不能となった。

従って、月例会も昭和20年3月9日を最後に8月の終戦まで中断した。

(2)昭和20年9月から昭和20年12月まで

終戦直後の昭和20年9月から12月までは、月報は発行できなかったが、はがきで連絡を取り、月例会は2回開催している。その時苦勞して会員の住所を調べてはがきで連絡しました。

(3)昭和21年1月以降

昭和21年1月と2月は上田郷友会報告を宮下鈺太郎翁の葬儀の状況を載せている。そして、昭和21年3月からは、昭和19年3月10日の大空襲で上田郷友会月報を中断する以前と同じ形式の月報の形式に戻って毎月出せるようになった。